

大西班 会議個別 (2025/8/20)

REMOTE-IMRT trialの進捗と その他議論事項

研究分担者 齋藤 正英
山梨大学 医学部 放射線治療学講座

1

必要事項まとめ

1. これまでの成果のサマリー

- REMOTE-IMRT trialを実施した。提案要件のIMRT治療計画品質のが既存要件に劣らないことを証明した(概要後述)。

2. 前回会議以降の進捗内容

- REMOTE-IMRT trialのキックオフミーティング～主たる解析実施(厚労省報告、英語論文文化)まで完了した。

3. 今後の予定

- JSMP130: 1演題発表(演題採択済、付随研究(一般演題(口演)))
- JASTRO2025: 2演題発表(演題採択済、主たる解析(優秀演題賞候補セッション(口演))、付随研究(一般演題(口演)))
- 上記発表以降も、随時付随研究の解析結果を発表予定(高精度部会等)
- 共同研究機関向けの結果報告会も年度内に開催予定(実施未完了施設の状況判断次第。)

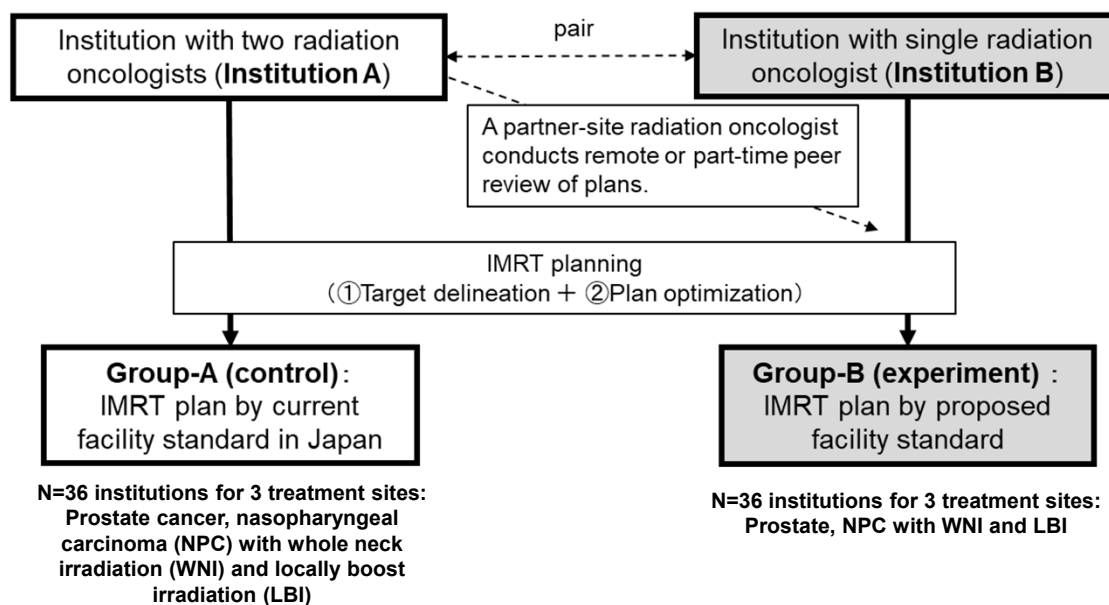
4. 発表・論文執筆状況

- 日本放射線腫瘍学会 第38回高精度放射線外部照射部会学術大会(2025/5/24) 部会長講演(中間解析結果の一部公表)
- 第6回山梨静岡放射線治療研究会(2025/6/9) 口演発表(中間解析結果を公表)
- 厚生労働省へ、主たる解析結果報告書提出(2025/6/20、主たる解析結果)
- 主たる解析結果英語論文(班内供覧中、9月投稿予定(Red journal))

2

2

(a) Schematic design of REMOTE-IMRT trial

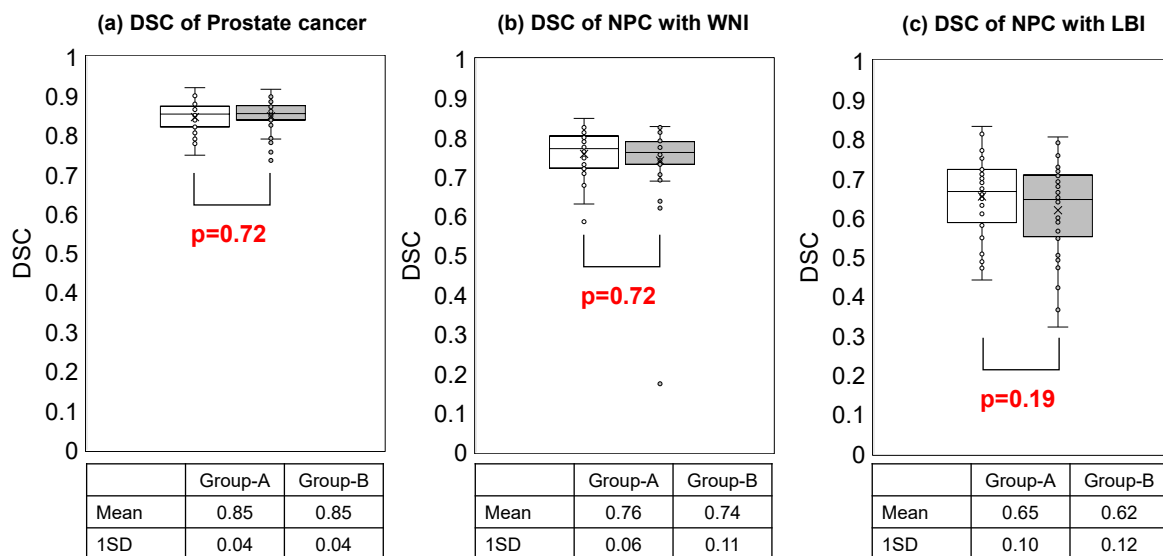


3

3

医師1名(+遠隔/非常勤医1名支援)群(Group-B)は
医師2名群(Group-A)に劣らない(標的輪郭描出)

□ Group-A: Two radiation oncologists-based model
■ Group-B: Single radiation oncologists-based model

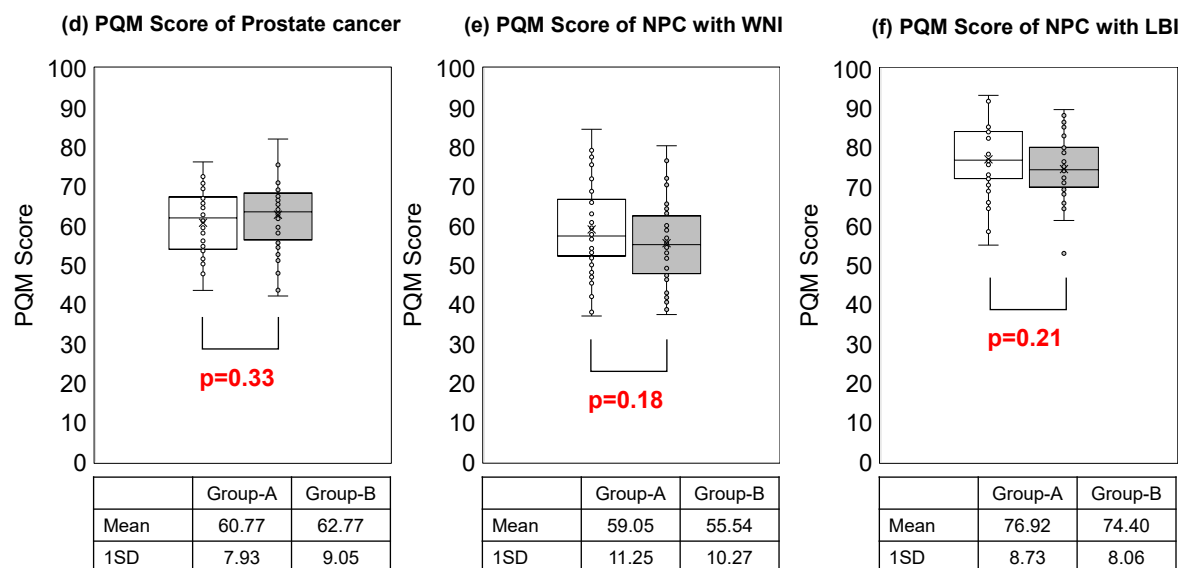


4

4

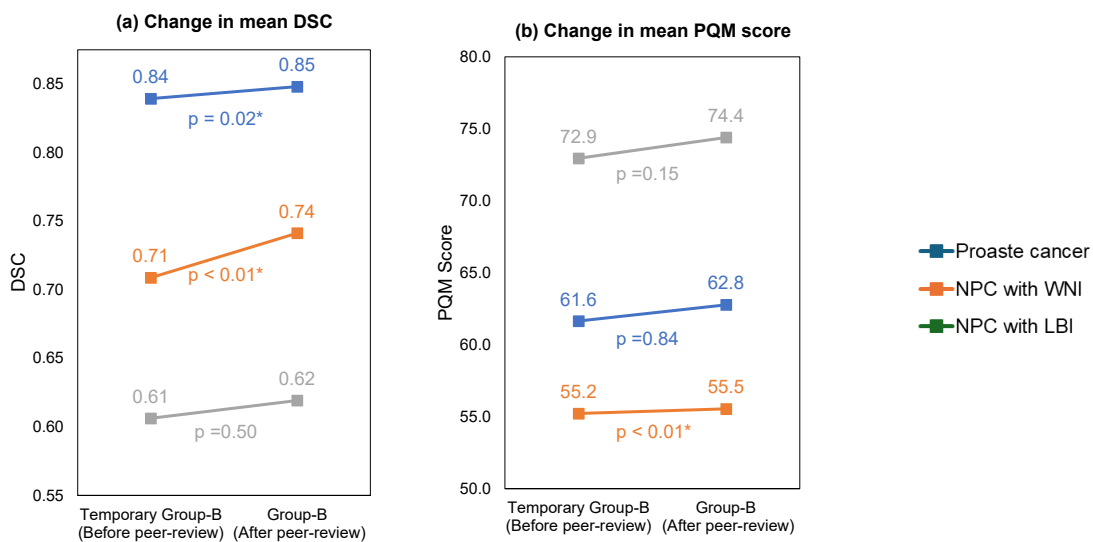
医師1名(+遠隔/非常勤医1名支援)群(Group-B)は
医師2名群(Group-A)に劣らない(IMRT最適化計算)

Group-A: Two radiation oncologists-based model
Group-B: Single radiation oncologists-based model



5

5

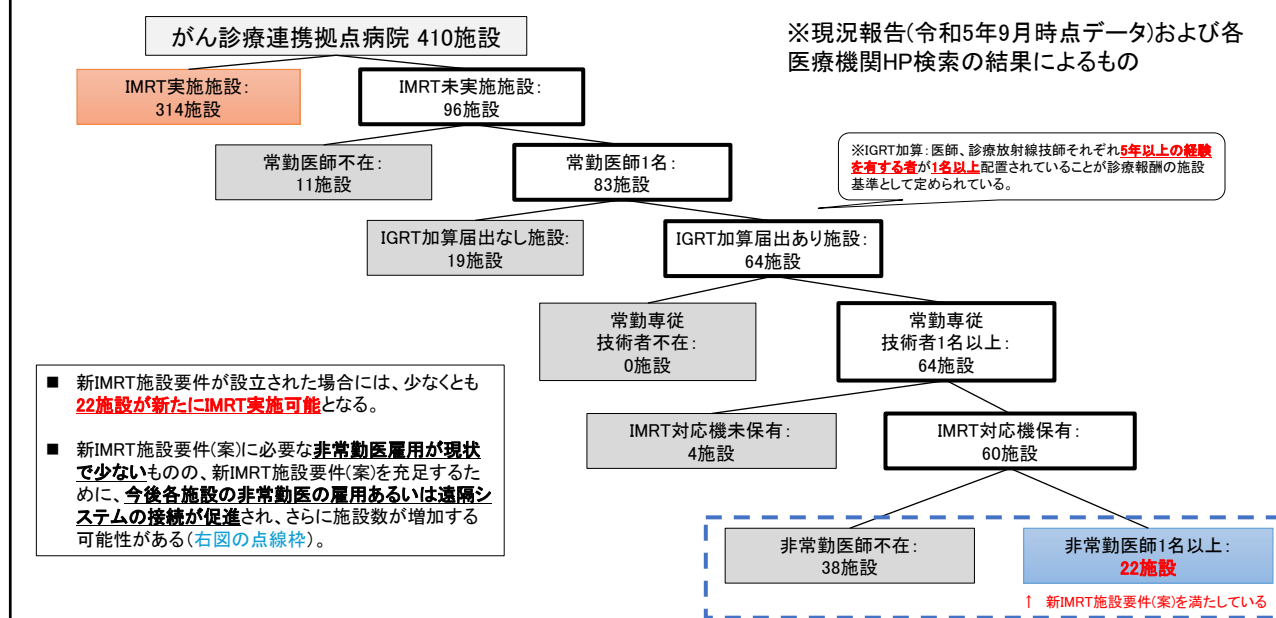


医師1名施設では、輪郭描出、計画の質共に支援施設のPeer-review後に改善傾向

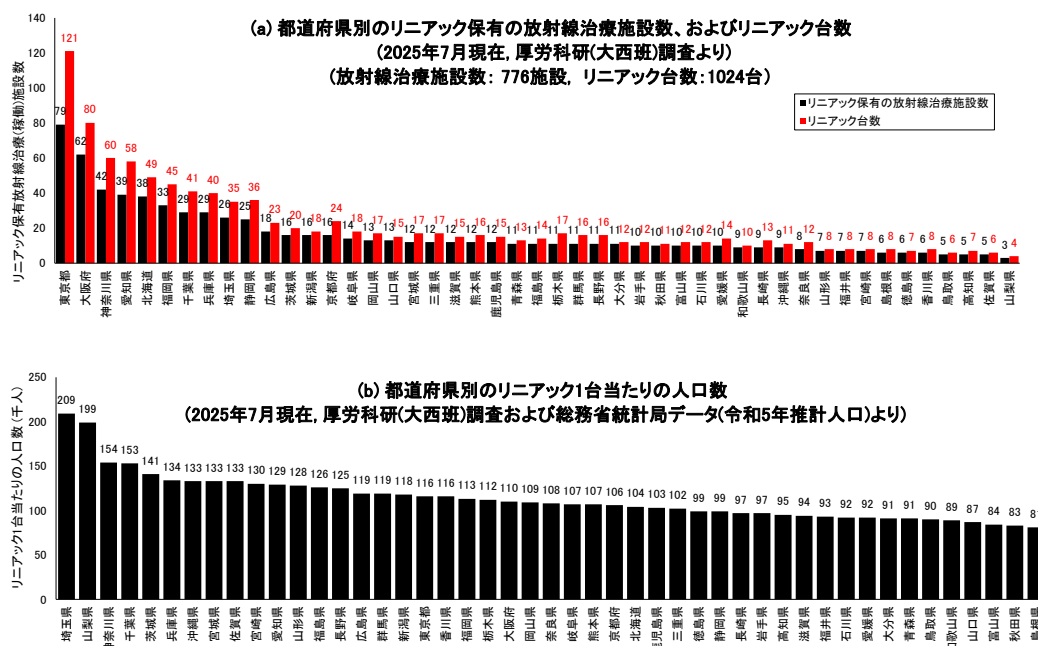
6

6

新IMRT施設要件(案)のがん診療連携拠点病院等への影響※



7



8

8

その他の議論

- **放射線治療提供体制についての技師・医学物理士の視点での次期がん診療整備指針提案、Japanese Blue Bookの該当部分の見直しを意識した具体的基準の見直し**
 - (診療報酬改定次第ではあるが、)REMOTE-IMRT trialを踏まえて、がん診療連携拠点病院の「医師2名以上の施設」については何らかの追加記載をしてもよいかもしれない。
 - 医師1名が必須であることは変わらない。
 - 一方で医師2名以上の施設については、「積極的に1名施設を支援してIMRTを実施できるようにする」など。(これは医師の先生方で議論いただく内容と思われるため、あくまで提案のみ。)
- **照射担当者と治療計画・QA/QC担当者のあり方**
 - 照射担当者：
 - 常勤専従2名以上(リニアック1台当たり)。
 - うち1名は5年以上の経験(専門技師が望ましい(必須ではない: 必須とすると現状で破綻の可能性))
 - 治療計画・治療計画・QA/QC担当者：
 - 常勤専従1名以上(リニアック1台あたり)。現状、「医学物理士」であることが望ましい。